

「エネルギー効率向上に関する国際パートナーシップ(GSEP)」による
インドネシアワークショップへの参加について
～国際連携を通じた地球規模でのエネルギー効率向上への貢献～

2013年1月28日
電気事業連合会

電気事業連合会は、本年1月21日から23日に開催された「エネルギー効率向上に関する国際パートナーシップ (GSEP) *1」 電力ワーキンググループ (WG) の第1回ワークショップ (開催国：インドネシア) に参加いたしました。

GSEP は、官民パートナーシップのもと、産業・建設分野における省エネルギー推進を目的に、APP*2の後継として2010年7月に設立されました。

本組織は、セクター別に6つのWGで構成されており、電力WGでは、石炭火力発電所における熱効率の維持向上に資する運転・保守技術の改善提案や、発電、送電、配電分野における優れた技術・ノウハウの共有等を通じて、地球規模での省エネルギー推進やCO₂排出量削減に貢献していくことを目指しております。

今回のワークショップでは、電気事業連合会から、わが国の石炭火力発電における熱効率の維持向上に向けた取り組み等についてプレゼンテーションを行いました。また、訪問したスララヤ火力発電所4号機(石炭、40万kW)では、発電技術者が設備診断や運転データの分析等を行い、運転・保守に関する改善提案を実施いたしました。

インドネシアでは、現在でも総発電電力量の約4割を石炭火力発電が占めていること、また、今後とも石炭火力発電所の増設が計画されていることから、同国において、適切な運転・保守管理が実施されることは、地球規模での省エネルギー推進やCO₂排出量削減の観点からも重要であると考えられます。

なお、今回の活動については、クリーンエネルギー大臣会合*3(2013年4月17日から18日、インド)において結果が報告される予定です。

今後とも、本活動を通して、参加国と協力しながら、電力セクターにおける地球規模でのCO₂排出量削減に貢献してまいります。

以上

※1 エネルギー効率向上に関する国際パートナーシップ

(Global Superior Energy Performance Partnership)

- ・日米共同提案により 2010 年 7 月に設立。日米の他にインド、カナダ、メキシコ、南アメリカ、欧州、韓国、オーストラリア、ロシアが参加を表明
- ・APP タスクフォースから移行された鉄鋼、電力、セメントの WG と、新たに作られた熱電併給、認証、都市・省エネの 3 つを合わせた 6 つの WG で構成
- ・電力WGには、日本（経済産業省・電気事業連合会）、米国、欧州、オーストラリア、中国、インドネシアが参加

※2 クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ

(Asia-Pacific Partnership on Clean Development and Climate)

- ・アジア太平洋地域において、増大するエネルギー需要、エネルギー安全保障、気候変動問題などに対処することを目的として 2006 年 1 月に設立した官民の地域協力パートナーシップ
- ・日本、米国、豪州、中国、インド、韓国の 6 カ国が参加（2007 年 10 月からカナダも正式参加）
- ・実質的な活動を GSEP の場に移すことで 2011 年 4 月に活動を終了

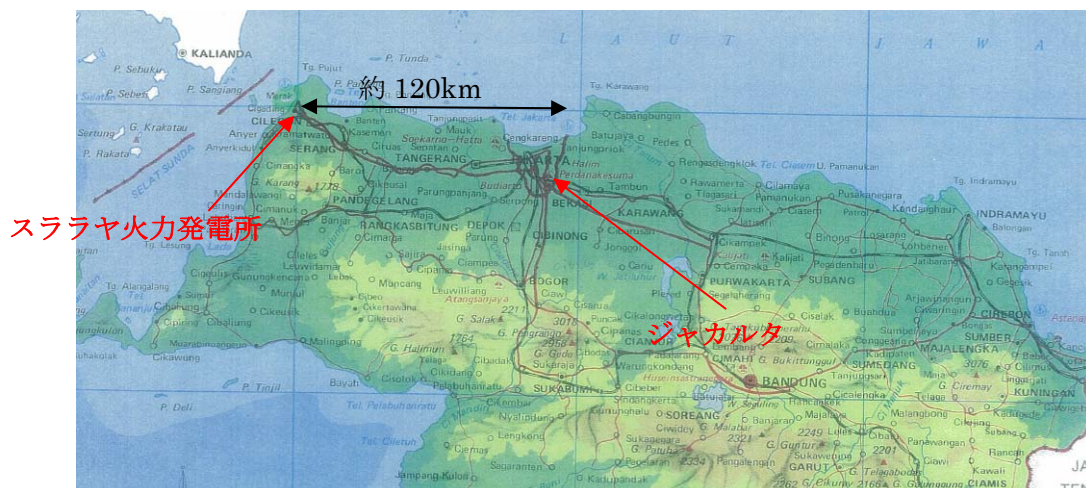
※3 クリーンエネルギー大臣会合

- ・クリーンエネルギー技術の開発や普及における国際的な政策協調を目的としたエネルギー関係の大臣級会合
- ・日本、米国、中国、欧州委員会など 23 の政府関係者が参加

1. インドネシアワークショップ開催概要

主 催	経済産業省 / インドネシアエネルギー鉱物資源省	
参加者 (合計 47名)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 14名(経済産業省、電気事業連合会、東北電力、中国電力、電源開発) ・中国 1名(世界資源研究所) ・米国 3名(エネルギー省、ローレンスバークレー国立研究所) ・欧州 1名(欧州電気事業者連盟) ・インドネシア 28名(エネルギー鉱物資源省、インドネシア国営電力会社 他) 	
日 程	1月21日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式 ・参加国による発送配電等に関するプレゼンテーション (於:ジャカルタ)
	1月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・スララヤ火力発電所における設備診断、改善提案、運転・保守に関する意見交換 (於:バンテン州メラク)
	1月23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・全体総括 (於:ジャカルタ)
スララヤ火力発電所 における改善提案	<p>スララヤ火力発電所 4号機において、参加国の発電技術者による簡易な設備診断を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空気予熱器の性能劣化などによるボイラー熱効率の低下、給水加熱器の性能劣化や弁からの蒸気リークなどによるタービン効率の低下などが認められ、定期的な保守による熱効率改善余地があることを確認。 ・同発電所の運転データを分析したところ、少なくとも 2%程度の熱効率向上は可能であり、年間で約 15 万トンの CO₂ 削減ポテンシャルがあることを確認。 <p>[スララヤ火力発電所 概要]</p> <p>40 万kW×4 基(1号:1984年, 2号:1985年, 3号:1988年, 4号:1989年運開)</p> <p>60 万kW×3 基(5号:1996年, 6・7号:1997年運開)</p>	

(位置図)



2. ワークショップ風景



ワークショップ会場



電気事業連合会からのプレゼンテーション



スララヤ火力発電所（全景）



中央制御室での運転データ等の確認
（スララヤ火力発電所）



現場を確認しながらのディスカッション
（スララヤ火力発電所）



現場設備の水位計確認状況
（スララヤ火力発電所）